

みんなでメロン栽培に挑戦

新たな特産品へ女性農業者が団結

【埼玉】三郷市の農業アグリ組合（岡永寿江代表、58）は、女性農業者が主となり農産物を共同で販売している。組合員は現在11人で、新たな特産品をめざしてメロン栽培に取り組んでいる。既存温室を活用して新しい野菜づくりに取り組もうと、2019年度に市のチャレンジ農業支援事業に応募。メロンを試験栽培したところ、栽培適性があることが分かった。20年度から品種を県内産種子のキスミ、ラプミの2品種に統一。春夏作と夏秋作の二期作で、市内のJA直売所や

三郷市・アグリ組合 既存温室を有効活用



飲食店、量販店などに出荷している。組合員は、各自の経営で別の作物を生産しながらメロンも栽培。共同育苗や防除薬剤の共有、生育状況の情報交換など、密接なコミュニケーション

で安定した生産活動につながっている。レストランのメニュー開発にも携わり、組合員たちはやりがいを感じている。岡永さんは「女性同士の交流を大切にして、メロン栽培の技術向上に取り組みたい。栽培仲間を増やし、女性同士の輪が広がってほしい」と話す。

岡永さん（後列右）と組合員の皆さん